

公表: 令和3年2月26日

事業所名 : こども発達支援センターもも

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	78%	22%	療育内容によって部屋を使い分けをしている。子どもの様子に合わせてパーティションも使用している。	スタッフ利用児の意見を聴きながら、次年度活動室を改装することを検討している
	②	職員の配置数は適切である	89%	11%	加配加算分も含めて配置されており、適切である。わからない	今後も継続していく
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	89%	11%	室内はバリアフリーである。構造化はあえて少ない。配慮されている部屋と配慮されていない部屋がある。	スタッフ利用児の意見を聴きながら、次年度活動室を改装することを検討している
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	清掃は朝夕に実施している。感染症に応じてアルコールや次亜塩素酸水など使い分けて実施している。	今後も継続していく
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	56%	44%	参画したい気持ちがあるが、日々の業務が忙しく、時間が取れない。	次年度からはミーティングの頻度を高める予定なので、ミーティングを通じて共有していく
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	89%	11%	評価は毎年必ず実施している。保護者からの温かい言葉は職員の原動力になっている。	今後も継続していく
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	78%	22%	ホームページにて公開している。	今後も継続していく
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	11%	89%	外部評価をしてもらっていない。	第三者評価の導入を検討している
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	33%	67%	コロナの影響で研修が少なくなっている。	次年度は研修が再開された場合には実施していく

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	89%	11%	面談を行い丁寧に行なっている。	面談頻度が高すぎるほどだと考えており、効率化も実施していく
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	89%	11%	生活習慣チェックを年2回実施中。	今後も継続していく
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	89%	11%	児発管が実施している。	次年度以降は職員間での共有を密にする
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	89%	11%	日々、支援目標を確認、見直しながら支援を実施している。	次年度以降は職員間での共有を密にする
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%	立案反省を行なっている。担当した職員同士で遣唐使、反省を行いながら立案している。	次年度以降は職員間での共有を密にする
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	89%	11%	月毎の活動を定めている。年間計画を立てて、活動を計画している。	今後も継続していく
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	89%	11%	個別、集団、少人数で取り組めるグループにて療育を実施している。	今後も継続していく
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎日決まった時間に申し送りをしている。	今後も継続していく
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	89%	11%	記録を書きながら振り返りや共通確認をしている。次回の支援内容も含めて話をすることもあるが、毎回ではない。	次年度以降は職員間での共有を密にする
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	89%	11%	個人記録は当日必ずつけている。	今後も継続していく
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	89%	11%	成長を見て目標を達成すればその都度見直している。6か月に1回は見直しを行なっている。	今後も継続していく
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	67%	33%	同法人内で解決することが多い。子どものために他機関との連携が大切だとおもう。	近年担当者会議に参画する機会は増加しているので、職員間でも共有を進めていく

関係機関や保護者との連携	②	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	89%	11%	保健師と月に1回は情報共有を行なっている。	今後も継続していく
	③	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	33%	67%	医療的ケア児の利用がない。	該当児がない
	④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%	医療的ケア児の利用がない。	該当児がない
	⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	療育のまとめを行い就園先に提出している。保護者同意の上で情報共有連携を行なっている。	今後も継続していく
	⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	89%	11%	療育のまとめを提出し、必要であれば出向いて話をすることもある。	今後も継続していく
	⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	22%	78%	コロナの関係で連携する機会がなかった。	次年度はこれまでと同様に実施していく。
	⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	100%	0%	法人内のこども園との合同行事を実施している。	今後も継続していく
	⑨	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	22%	78%	呼ばれない。	参加したいと何年も言い続けているが参画できる機会を与えられない
	⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳で毎日の様子を伝えたり、直接話すことを大事にしている。	今後も継続していく
	⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	44%	56%	年に10回保護者向けの学習機会を提供している。	ペアレントプログラムだけに限れば今年度実施できていないが、たの保護者支援は実施しているので継続していく
	⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	89%	11%	利用契約を必ず実施している。利用前に説明を行なっている。	今後も継続していく

保護者への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	89%	11%	児発管面談で同意をもらっている。	今後も継続していく
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	相談の申し込みがあれば日程調整を行い速やかに対応している。	今後も継続していく
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	78%	22%	親子通園を実施している。例年と比べてコロナの影響で規模縮小があった。	次年度以降コロナが落ち着いたら保護者同士の連携に繋がる関わりを検討していく
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	相談があれば日程調整を行い、記録を職員間で共有している。	今後も継続していく
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	89%	11%	月1回ももだより、OTだよりを発行している。	今後も継続していく
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	個人情報の利用同意書をもらっている。特定の場所で管理している。	今後も継続していく
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	必要な場合はメールでの連絡など個別な対応をしている。	今後も継続していく
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0%	100%	コロナの関係で地域でのイベントが中止されているので関わりが取れていない。	見学の受け入れは随時行なっている
非常時	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	89%	11%	訓練は毎月行っているが、保護者にマニュアルの周知はできていない。	必要な範囲で保護者に対しても情報を共有できるように検討する
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	89%	11%	様々な想定で訓練を行なったいる。	今後も継続していく
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	89%	11%	面談を行い、確認を行い支援計画に反映させている。情報提供書をもらっているケースがある。医師から1筆もらっている場合もある。	今後も継続していく

時 等 の 対 応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	89%	11%	検査結果と医師の指示書を出してもらっている。	今後も継続していく
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	78%	22%	毎日の申し送りで必要な時に共有している。	今後も継続していく
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	33%	67%	年1回の外部研修に代表職員が参加している。コロナの関係で研修機会が減少している。	次年度コロナが落ち着いたら積極的に実施していきたい
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	44%	56%	身体拘束をしない。身体拘束が必要な利用児がいない。	身体拘束について見識を深められるように努力を続ける